

「海兵隊、抑止力とっていなかった - 鳩山首相『認識浅かった』 - 」

日本経済新聞 2010年5月5日朝刊を読む

海兵隊、抑止力とっていなかった - 鳩山首相『認識浅かった』

1. 「学ば学ぶにつけ、(海兵隊の部隊が)連携し、抑止力が維持できるという思いに至った」。鳩山由紀夫首相は4日、沖縄に駐留する米海兵隊が抑止力の維持につながるとの認識を持っていなかったと説明した。
2. 名護市の稲嶺進市長との会談後、記者団の質問に答えた。記者団が「抑止力の問題は衆院選の時点でも分かっていたはずで、認識が浅かったのでは」と質問すると、首相は「当時は海兵隊が必ずしも抑止力として沖縄に存在しなければならないとは思っていなかった」と釈明した。そのうえで「(認識が)浅かったと言われればその通りかもしれないが、すべてを県外、国外に踏み出すという結論にはならなかった」と語った。

[コメント]

朝鮮半島が有事の際に、韓国に駐留している米国の陸軍はアメリカ議会上下両院の開戦の決定がなければ軍事行動はできず、大統領の命令だけで対応できるのは米国ノーフォークとカリフォルニア、そして沖縄の3か所にいる米国海兵隊だけ、実質的には沖縄の海兵隊であることを、鳩山首相は初めて知ったのかもしれない。何のためにヘリコプターの基地があるのか、なぜヘリコプターの緊急発着訓練を繰り返し行わなければならないのか、鳩山首相も少しずつわかっての発言だったのかもしれない。それにしても、昨年末の鳩山前首相の発言は、第2次大戦終結時点からすさまじいばかりの負担を強いられた沖縄の人々の心情を害したことは計り知れない。今後は、前首相の認識不足を嘆くだけでなく、この国のあり方、日本の安全保障のあり方を十分考えた上で、沖縄の方々だけでなく日本全体で相応の負担をし、安全保障に関する責任を果たすことを議論すべき時期にきていると思う。その意味で、この記事は歴史に残る文章であると考えられる。

- 2010年7月1日追記 林明夫 -